

サステナビリティ (ESG) 経営の推進

パナソニックグループは、従業員が仕事や経営を実践していくにあたっての考え方をまとめた「経営基本方針」を定め、これに基づいた経営を行っています。

「経営基本方針」をESGの視点で紐解くと、環境と社会の視点から、気候変動を含む地球環境問題の解決や人々の心身の健康と幸福に対して誰にも負けないお役立ちを果たし、結果として得られた利益を社会に還元し、またさらなるお役立ちに向けた投資に回していくことを標榜しています。さらに、そのお役立ちを持続するためのガバナンスの視点で、自主責任経営、一人ひとりの社員稼業の実践、人を活かし、衆知を集めた経営、そして、コンプライアンスを含む「公明正大の精神」を謳っています。

パナソニック エナジーは、パナソニックグループの事業会社のひとつとして上記の考えに則り、企業活動を通じて環境問題や社会問題の解決に貢献するとともに、透明かつ公明正大な経営基盤を確立し、持続可能な社会と中長期的な企業価値向上を実現すべく、ESG経営の推進に取り組んでいます。

これは当社が果たすべき使命であるミッション「幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現」と軌を一にしたものであり、当社にとって必須の取り組みだと考えています。

パナソニックグループ「経営基本方針」
<https://holdings.panasonic.jp/corporate/about/philosophy.html>

パナソニックグループ「サステナビリティ経営の推進」
<https://holdings.panasonic.jp/corporate/sustainability/management/structure.html>

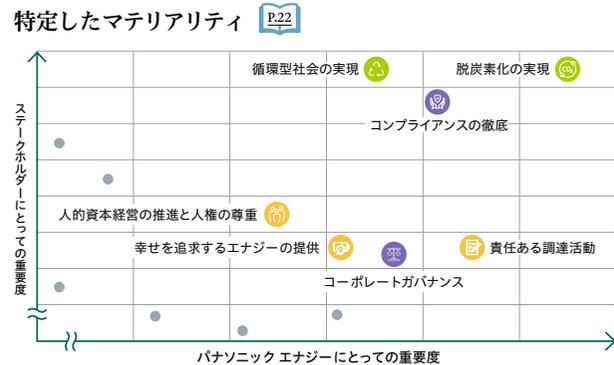
ESG推進体制

当社は、社長を委員長とするESG委員会を2023年度に設置し、ESGに関する全体計画の立案、進捗状況のモニタリング、達成状況の評価を行う体制を整えました。ESG委員会がその審議内容に基づいて当社取締役会へ年次で報告・提言を

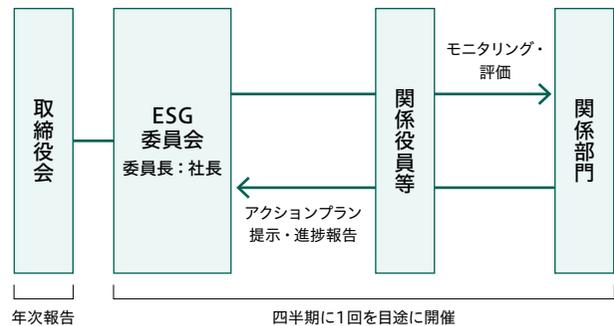
実施することにより、ESGの諸課題への考慮を経営の意思決定プロセスへ組み込んでいます。

また具体的な各種施策の推進に当たっては、7つのマテリアリティごとに執行役員などを推進責任者と定めた上で、各マテリアリティに対し中長期的な目指す姿とKPI (Key Performance Indicator: 重要業績評価指標)を設定し、達成に向けたアクションプランを策定しています。同委員会が、推進責任者からの進捗報告をもとに活動のモニタリング・評価を行い、施策の効果測定と改善を促すことで、年間を通じたPDCAサイクルを確立しています。

2023年度の年間活動については2024年度の初回において進捗レビューを行ったほか、当社の成長性向上に特に重要な



当社ESG経営の推進体制



「脱炭素化の実現」「循環型社会の実現」「人的資本経営の推進と人権の尊重」の3マテリアリティについては2023年度期中においてもレビューを行い着実な施策実行を促しています。

このほか、同委員会では外部知見も活用した勉強会を定期的実施し、ESG上の社会的要請の逐次把握に努めています。

加えて、執行役員の報酬制度においては、短期・中期の業績に基づく業績連動報酬に関し、財務指標とともにESGの各側面の指標も加味することで、施策の推進への動機づけを強化しています。

ステークホルダーとの対話

当社は、お客様、投資家様、購入先様、政府、業界団体、NPOやNGO、地域社会、従業員等、世界中の幅広いステークホルダーとの対話を重視しており、事業の様々な段階で対話を実施しています。当社の活動情報をステークホルダーへ提供すると同時に、ステークホルダーから当社への期待や懸念についてのご意見を頂いています。頂いたご意見は事業活動や商品づくりをはじめとして、ESG経営にも取り込んでいくことにより、さらなる企業価値向上を目指していきます。

主なステークホルダー

